

大阪梅田ツインタワーズ・ノース1階「コンコース」において
阪急うめだ本店のコンコース ウィンドーと連動したアートインスタレーション
「ニュー博物誌～好奇心の遺伝子～」を開催します
開催期間：5月8日(木)～6月23日(月) [47日間]

阪急阪神不動産株式会社では、5月8日(木)から6月23日(月)までの期間、大阪梅田ツインタワーズ・ノース1階の「コンコース」において、阪急うめだ本店のコンコース ウィンドーと連動したアートインスタレーション「ニュー博物誌～好奇心の遺伝子～」を開催※¹します。

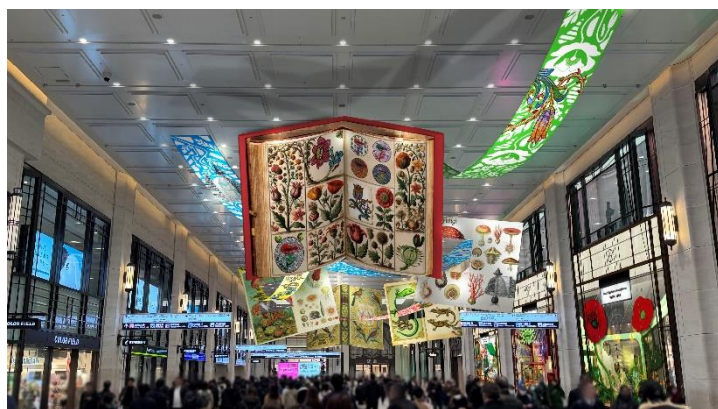
本企画は、大阪の街を巡りながらアートやデザインに出会う周遊型エリアイベント『Osaka Art & Design 2025 (以下、OAD2025)』の注目プログラムです。現代美術家・宮田彩加さんとグラフィックデザイナー・廣田碧さんによる、「ニュー博物誌～好奇心の遺伝子～」と題したアートインスタレーションです。装飾は宮田彩加さんが、エルンスト・ヘッケル※²の図鑑や古今東西にわたってさまざまな布に描かれてきた動植物などからインスピレーションを受けて、自然科学と芸術が交差する世界を描き出して、生命の神秘に迫る探究心を刺繍で表現しています。さらに、その作品を廣田碧さんの手によって、過去・現在・未来もきっと変わらない、人類の根源的な好奇心が息づく世界をまるで博物誌のように空間をデザインしており、未知への憧れが掻き立てられるアートとして、人々の遺伝子に息づいていくようにとの願いを込めています。

当社は、阪急阪神ホールディングスグループの中核会社として、大阪梅田エリアの将来目指す街の姿と、その実現のための基本的な方向性を示した「梅田ビジョン」のもと、「大阪梅田でしか体験できない新たな発見と感動が生まれる空間」を提供することで、この街が国際交流拠点となることを目指して取り組んでいます。そして、このアートインスタレーション「ニュー博物誌～好奇心の遺伝子～」もその一環です。

概要は次ページのとおりです。

※¹ 本企画は実質再生可能エネルギー由来のCO₂フリー電力を使用します。

※² 19世紀のドイツの生物学者・哲学者・医者/比較解剖学の分野でも活動し「生物の驚異的な形」は現代でも高く評価されています。



アートインスタレーション「ニュー博物誌～好奇心の遺伝子～」(イメージ)
左:大阪梅田ツインタワーズ・ノース1階の「コンコース」
右:阪急うめだ本店のコンコース ウィンドー

(1) アートインスタレーション「ニュー博物誌～好奇心の遺伝子～」の概要について

【実施概要】

■実施場所

大阪梅田ツインタワーズ・ノース 1階 「コンコース」

■コンコースの規模

天井高さ 9m×通路幅 16.5m

■実施期間

5月8日(木)～6月23日(月) [47日間]

■コンコース会場

生命の象徴となる植物とその孢子、鳥などのモチーフと連動した宮田彩加さんと廣田碧さんによる『コレクション図鑑』がコンコースの空間で浮かぶように展示します。また、その図鑑から宮田彩加さんのモチーフが飛び出し、帯状になって広がっていくような空間演出を展開します。

■ウィンドー会場

宮田彩加さんの作品を中心に、廣田碧さんのグラフィックとのコラボレーションを展開します。温室やコレクションルーム、宇宙の研究室などを、阪急うめだ本店のコンコース ウィンドーを使って、生命の息吹や発見と驚きを、楽しみながら見て回る演出を展開します。

■アーティスト

宮田 彩加 (みやた・さやか/現代美術家) さん



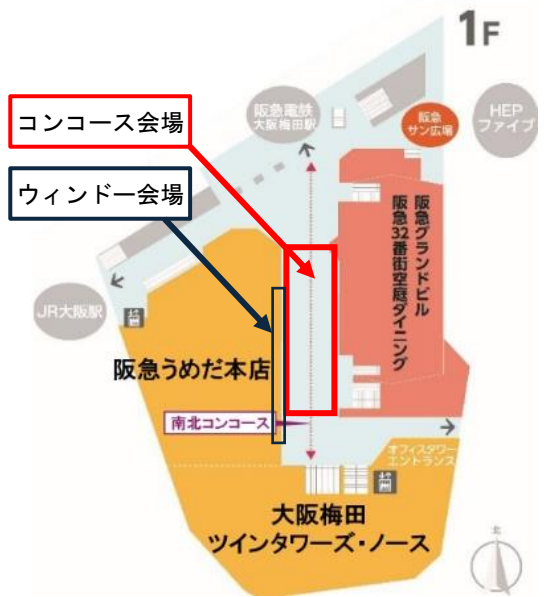
京都生まれ。2012年、京都造形芸術大学大学院 芸術表現専攻 修士課程 染織領域修了。

大学で染織を専攻したことがきっかけで、染めた布に奥行きやボリュームを出すために手刺繍・ミシン刺繍によるオリジナルテクニックを使った制作を始める。

ミシンという世の中に溢れた媒体に意図的にバグを起こすことで現れる糸の層

「WARP」シリーズや、支持体の布を無くし、糸だけで構築させていく「Knots」シリーズなど、「エラー：失敗の行為によって新たな価値観が生まれる」を根本にしたテクニックと、生物の形態や、物事の発生や進化の在り方を呼応させた作品作りをしている、唯一無二の現代美術家として活躍している。

主な展覧会に2024年「札幌国際芸術祭」(北海道立近代美術館)、2022年個展「裏腹のいとほやすが」(岐阜現代美術館)。



廣田 碧 (ひろた・みどり/看板屋・グラフィックデザイナー) さん



デザイン事務所でグラフィックデザイナーとして活動後、2015年から家業である看板屋「看太郎」の2代目を継ぐ。店舗やブランド、イベント、展示などのロゴ・VIのデザインを手がけながら、看板を主軸に、手描きのレタリングやドローイング、グラフィックといった平面のデザインを、さまざまな素材・媒体を用いて空間へ展開することを試み、デザイン→製作→施工までの工程を一貫して担う。看板が持つメディアとしての可能性を探索するための自主企画として『超看板』を2017年(大阪・ミミヤマミシン)と2020年(東京・村世界)に開催。現在は衰退しつつある看板のペイント技術の普及も目指している。

(2) 専用ウェブサイト「梅田遊園プロジェクト」について (<https://umedayuen.com/>)

「梅田遊園プロジェクト」とは、“コンコースから広がる未来へ”をテーマに、大阪梅田の街を巨大な庭園に見立て、驚きや感動に満ちた空間を創造していくことを目指して開設した専用ウェブサイトです。大阪梅田ツインタワーズ・ノース1階「コンコース」で開催したこれまでの取組を含めて紹介しています。

(3) Osaka Art & Design 2025 について

大阪の街を巡りながらアートやデザインに出会う周遊型エリアイベント「Osaka Art & Design 2025」。

3回目となる今年は、5月28日(水)～6月24日(火)の4週間にわたって開催します。

梅田・中之島から心斎橋・なんば、さらに今回は阿倍野まで拠点を拡大。大阪の主要エリアの、約60か所のギャラリーやショップ、商業施設などを舞台に、気鋭のクリエイターによる多彩な作品が登場。美術館を巡るようにアートや家具、ファッションなどを鑑賞し、本当に気に入ったものを購入できるチャンスもあります。大阪で過去最大級のアート&デザインの祭典を、ぜひお楽しみください。

「Osaka Art & Design 2025」公式サイト <https://www.osaka-artanddesign.com/>



以 上